

# 契約の相続人と相続分

聖書における神の契約は、一つの壮大な計画が段階的に啓示されていく物語です。特にアブラハム契約が築いた土台の上に、ダビデ契約がより発展した形で結ばれる様子は、「相続人」と「相続分」という視点から見ると、その一貫性と深化の過程が鮮やかに浮かび上がります。

## 第一段階：アブラハム契約の土台 — 「民」と「土地」

神の救済計画の基礎となるアブラハム契約では、相続人と相続分は国家の原型として示されます。

### ・ 相続人：偉大な民（イスラエル）

アブラハム個人への「あなたの子孫を大いなる国民とする」という約束は、出エジプトを経て、一つの集合体であるイスラエルという「民」として成就します。彼らが神の計画における最初の集団的な相続人です。

### ・ 相続分：約束の地（カナン）

「この地をあなたの子孫に与える」という約束は、民がカナンに入植することで成就します。この物理的な土地が、彼らに与えられた具体的な相続分です。

## 第二段階：ダビデ契約への発展 — 「王」と「王国（花嫁）」

アブラハム契約が築いた「民」と「土地」という土台の上に、ダビデ契約は、その民を統治する王とその王国の永続性という、より人格的で深い関係へと発展させます。

### 1. 相続人（誰が相続するのか）：「座」が象徴するもの

「座」（王座）は、統治の権利を持つ**相続人そのもの**を指し、その焦点は「民」から「王」へと絞られます。

#### ・ 父なる神の座：契約の箱

万物の王であり、すべての相続の源である父なる神の地上における御座です。

#### ・ 子なるメシアの座：ダビデの王座

父から統治を委任された相続人、すなわちダビデとその子孫であるメシアが座るべき王の御座です。

### 2. 相続分（何を受け継ぐのか）：「家」が象徴するもの

「家」は、相続人が受け継ぐ**相続分そのもの**を表し、その内容は「土地」から「王国」、そして「花嫁」へと深化します。

#### ・ 神の相続分としての家：神殿

神の御座である契約の箱を安置する「神の家」であり、神の栄光と臨在を象徴します。

#### ・ ダビデの相続分としての家：王朝と花嫁

神がダビデに与える相続分は、永続する血統、民、そして王国を指す「ダビデの家」です。新約聖書の光の下で、この「家」は、父が子に与える最も大切な相続分、すなわち花嫁なる教会を指し示します。子が統治する王国とは、子を愛し、子に愛される共同体そのものなのです。

## 結論：契約における「家の交換」と計画の成就

---

- **ダビデの誓い：「私は神のために物理的な家（神殿）を建てたい」**
- **神の応答（誓い）：「いや、わたしがあなたのために血統の家（王朝）を建てよう」**

この「家の交換」を通して、神の計画はアブラハム契約の「民」と「土地」から、ダビデ契約の「王」と「王国」へ、そして究極的には「子なるキリスト（相続人）」と「花嫁なる教会（相続分）」という、愛による人格的な結びつきとして成就するのです。